

GE通信 (明法グローバル エンデバーズ)

明法中学・高等学校

2017年11月



2014年にスタートした新しい科学による人間教育「明法GE」の魅力ある教育内容をお伝えします。

今月GEの中学3年生は研修旅行で台湾へ向かいます。なぜ台湾なのか。GEでは10年後社会に貢献する人材づくりをテーマにすべてのカリキュラムが連動している、日本で初めての試みに挑戦しています。今の中学生がこれから経験する社会変化は、これまでの日本が経験したことがないものばかりです。6年前の東日本大震災では、ドローンはほとんど登場しませんでした。しかし現在ではレスキューや調査の最前線に配置されています。このドローンメーカーについて、アジアの大学生はいくつもベンチャー企業を立ち上げています。プログラム言語は自然言語処理や機械学習向けのプログラミング言語であるPythonが、C言語より求められる時代となり、AndroidはWindowsより多くのデバイスで使われるOSとなりました。

「今学んでいることは将来使えるのか？」という疑問はどの時代にもありました。しかし、わずか数年でスタンダードが変わっていくのはおそらく初めての経験だと思います。この加速的進化はAIが原因の一つですが、機械学習についての講座はそれこそ一流大学でもごくわずかの学生しか受けられません。このような矛盾について考察すると、今最も身に着けてほしい学力というもの浮かび上がります。

先週インドで開催された宇宙開発の国際シンポジウムで人材育成の発表をしてみました。どこの国も、「人材育成」と「指導者育成」と「継続的的事业」を唱えています。そこまでの重要性の認識とSTEM教育の推進の重要性を語っていますが、どうすればよいかという点については、日本以上に厳しいようです。したがって、本当に絞り込んだごくわずかの生徒しかそのような科学教育を受けられず、格差がどんどん拡大しています。私は、経済的格差の温床は教育格差であると訴えてまいりましたが、この現象はついに日本でも出てきていると言わざるを得ません。ちなみにインドの宇宙開発への予算は来年JAXAを超えると予想されており、韓国の衛星関係の予算も日本の予算額に肉薄しています。画像を使ったIoTが当たり前になっている中、明法以外で画像解析に必要な数学や物理を学習に取り入れている学校はほとんどないといえるでしょう。

これまでにない時代に対応するには、さらにその先にある社会での活躍まで考えた時、これまでの教育とカリキュラムで対応できるか。明法GEは、生徒たちに「今最も身に着けてほしい学力」を国際的な視点で考えています。台湾では、トップ中学生徒との協働学習、台湾企業の方の講演とディスカッション、トップの台湾大学の研究室などの見学が盛り込まれています。非常に中身の濃い、明法GEにしかないスケジュールです。帰ってきたときの彼らの顔が楽しみです。

北原 達正

毎月20日 発刊予定

バックナンバーは本校HPでご覧になれます。



CED (Chief Educational Director)

北原 達正

特集

- CEDより
- 中国文化・言語講座 (中3)
- ディベート (中2)

2018年、3コース (明法サイエンスGE・国際理解コース・進学GRITコース) がスタートします。



台湾研修旅行をテーマとして、これまで英語プレゼン発表練習や調べ学習を行ってきたところです。研修旅行直前となる今回は、中国文化と中国語についての講座を行いました。昨年に引き続き、早稲田大学アジア太平洋研究科博士課程の周俊先生に「台湾の歴史文化と漢語」についてお話を頂きました。はじめに台湾の歴史について、次に実際に中国語や台湾の習慣について学び、台湾の人と円滑にコミュニケーションをするには、どうしたらよいかというプログラムです。

台湾は歴史的にみるとたくさんの呼び名があり、それは高度な政治性を帯びていること。西欧による占領時代や、その後の鄭成功の時代、清王朝の時代、日本統治時代、中華民国の時代と今までの台湾の足跡を概観し、民族構成と歴史的経緯、現在の台湾の言語に与えている影響などについてのご説明もいただきました。

また、日本と中国の同字異義語の説明を頂きました。たとえば「娘」は母親、「大丈夫」は立派な男、という意味となります。では「丈夫」「合同」とはどのような意味になるか?と生徒への質問、答えは「夫」「契約」となるとのこと。生徒にとっては、とても意外であったようです。続いて日中における習慣の違いについて、「お礼を多く言うと、距離が離れる」「好き嫌い、ストレートな意思表示」「プレゼントは大きければ大きいほどよい」「4は『死』につながるので、強く忌まれる数字」等々、異文化交流では意外なことにも気を付けるべき点が多くあることを認識させられました。

最後に中国語での挨拶と自己紹介の学習を行いました。周先生によると「今年の生徒は、少しシャイかな?」とのこと。今回の台湾研究旅行では、勇気と自信を身に着けた上で、積極的に台湾の人たちと交流を深めてもらいたいと思います。



1学期に引き続き、西部先生によるディベート学習に取り組みました。11月23日の大会に備え、練習にも熱が入ります。この日の論題は「高齢者の自動車運転は禁止すべきか否か」。高齢者による重大事故が発生する一方、高齢化や公共交通機関衰退に伴う交通弱者の問題がクローズアップされる昨今あって、重要でリアリティのあるテーマだったのではないのでしょうか。

自他の主張を的確に理解した上で説得力のある説明を行い、相互が納得を得られる対話・発表を行うには、ディベートは絶好の機会となります。ディベートで勝ち上がる為には、言語的に情報を処理(整理・要約)する能力、論理的に思考する能力、社会に対する問題意識や教養、会話に説得力を持たせる話し方・態度などが必要とされ、この能力はロボットコンテストや課題発表のみならず、大学等における研究発表や、仕事等における交渉。すなわち、これからの社会を逞しく生き抜いていく上で絶対に必要なものであるからです。

次回のディベート講座は大会直前の11月21日。熱意ある取り組みと、大会での健闘を期待します。



各学年の取り組み

- ・中学1年生: ロボット制御(プログラム・機構学)・プレゼンシート作成・電子温度計(数値解析)
- ・中学2年生: ロボット制御(プログラム・機構学)・ディベート
- ・中学3年生: ロボット制御・プレゼン動画作成・台湾準備(文化語学・英語プレゼンテーション)
- ・高校1年生: 画像解析(リモートセンシング画像・データ構造解析)・WEBデザイン(Google site)

